

戸籍はロマン

1923年(大正12年)7月某日、日本に向かう船にひとりの少女が乗っていました。少女の名はあやさん。あやさんは当時、朝鮮(現韓国)で暮らしていた田中家の次女として、1913年に生まれました。あやさんが10才の時、あやさんを産んだお母さんは亡くなりました。その後、新しいお母さんができ、2人の弟妹が生まれました。家族も増えて楽しく日々を暮らしていた10才の時、あやさんはひとり養子に出されることとなります。行き先は富山県西礮波郡埴生村(現小矢部市)でした。

当時はよくあることだったのが…今となっては事情は分かりません。親や弟妹と離れ、そして生まれ育った土地を離れ、10才の女の子が船で海を渡る。旅行じゃないので戻ってこられません。船の上であやさんはどんな気持ちだったのでしょうか。おとく希望に満ちあふれ、ではなく、家族と離れ離れになる寂しさでいっぱいだったのではないのでしょうか。想像するだけで胸が締めつけられる思いになります。

この「あやさん」が僕のおばあちゃんです。その後、小矢部市で子供時代を過ごしたおばあちゃんは、おじいちゃんに出逢い、結婚。石川県富来町に移り住み、子供4人の母、そして教員としての人生を送りました。

僕が子供の頃、おばあちゃんは片栗粉に水を混ぜて火にかけ、砂糖を入れただけのものをいつも作ってくれました。甘くてプルプルな食感が大好きでした。富来まで遊びに行くと、帰る時、僕たちの車が見えなくなるまで必ず手を振ってくれました。

46才になった今でも、心の中にはおばあちゃんが生きています。今自分が元気に暮らしているのは、おばあちゃんが寂しかったであろう少女時代を乗り越えてくれたからこそ。多くの困難を乗り越えてきたおばあちゃんの遺伝子が、僕の体内にも流れていると思うだけで、今後目の前に現れるどんな困難も乗り越えられる気がします。

生きていれば108才のおばあちゃんへ
コロナウィルスや自然災害とか、今の時代もなかなか大変やよゝゝ;
激働きの世の中で時々不安にもなるけれど、笑顔で元気に生きていけるから安心してネ
おばあちゃんの強さと優しさが僕の花にもしっかりと流れているから大丈夫!!
いつも天国から見守ってくれてありがとう。こゆからもヨロシクね

これは、家系図作成のために取り寄せた「戸籍」を読み解き、それを元に母に聞き、最後に僕の想像を加えたものです。ルーツを知ること、先人への感謝の気持ちがより大きくなりました。感じたことは、最後に残るのって…「心」なんだろうなあってこと。「戸籍」はロマンですね。相続は「想続」とも書けます。これからも大切にしていこう。えがお相続サポートは、「あったかい相続」でこれからもお客様をサポートしていきます。